

新除草・調節剤

発芽後、直ちに枯死に至らしめる。雑草の発芽前～発芽時に非常に効果が高いために、耕起後に土壌処理する。残効性が極めて長く、一年生イネ科雑草に卓効を示すが、カヤツリグサ・広葉雑草に対しても効果がある。土壌中の移行性は小～中程度である。

毒性：ラットに対する急性経口毒性LD₅₀値は、雌8,400mg/kg、雄9,400mg/kgで普通物であり、魚毒性はA類である。

使用方法：粒剤は畑地一年生雑草の発生前に10a当り6～8kg、水和剤は同一条件で10a当り150～200gを水100～200lに希釈し、全面土壌処理する。

使用上の注意：①本剤は雑草発生前の処理が有効であり、既発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一散布する。②イネ科雑草に比べ広葉雑草には効果が不十分な場合

があるので、広葉雑草の優占する圃場では、所定範囲内で薬量を多めにする。③土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに使用する。④間作物に対して薬害を生ずるおそれがあるので、本剤を処理した桑畑での間作物栽培はさける。⑤砂土では薬害を生ずるおそれがあるので、使用しないこと。⑥桑の葉や付近の農作物にかゝると薬害を生ずるおそれがあるので、本剤がかゝらないように注意する。⑦水和剤は所定量を所定量の水でうすめ、よくかき混ぜてから散布する。なお、散布液調製後は、できるだけ速やかに散布する。⑧散布液を調製した容器および散布器具は、使用後に水でよく洗うこと。

安全使用上の注意：通常的使用方法では、水産動植物に害を及ぼすおそれはないが、誤飲しないように注意すること。

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和57年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和58年6月23～24日 10～17時

場所：白鳥園（長野県埴科郡戸倉町，TEL.

戸倉上山田 02627-5-0400)

◎ 人事異動

昭和58年5月1日付

任 事務局総務部 嘱託

中村 芳郎

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)832-4188(代)

昭和58年5月発行

植調第17巻第2号 ￥300(送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)833-1821番(代)

編集後記

薫風に頬をなでられながら夜空を眺めると、新彗星が飛び交い、いつしか夢の世界に導かれる。この狭い国土での農業の姿を宇宙より眺めると、さぞかし滑稽に映ることだろうが、広い視野に立って考えるべきではなかろうか。